



たてやま おらがんまつち



もな さと いも 館山市茂多地区 里芋祭り

国重要無形民俗文化財



地域の紹介

館山市茂名は、館山市の南部に位置し、海に囲まれた館山の中では数少ない海に面していない内陸部にある集落のひとつです。

集落は江戸時代からほとんど変化がなく、様々な伝統を今も色濃く受け継いでいる由緒のある土地柄でもあります。

谷間の集落のため農地は少ないながら、山の斜面を耕して作られた畑で栽培された作物は味が良いとされ、それを求めて市場から直接買い付けにくるほどでした。

また茂名には六軒様(ろっつけんさま)の伝承があり、茂名の始まりは6軒の古い家筋によって開かれたものであるとされ、今でもその家筋がたどれると伝えられています。

地域の自慢

三十戸しかない集落で、数多くの行事を常に当番制で行ってきました。時には年間に数種類の当番が重複して回ってくるので大変です。国指定の民俗文化財などは財政支援もなく、義務だけが重くのしかかってくるが、里芋祭りをはじめとした様々な行事が数百年と続いてきたのは、この当番制で集落全員が互いを平等に扱う村のしくみのおかげです。昔から続いてきたこのようなくみは他にあまり類を見ない、素晴らしいものです。

一般的には世襲制で、資産家の家が継ぐことが多い名主も、茂名では交代制で選び、地区の役もカミ、ナカ、シモの三地区の輪番制で決まる民主主義の見本のような地区です。特に里芋祭りの際には、地域外に出て行った若者から親戚までが戻ってくるなど、祭りに対する深い思いが伺われます。また、女性も表の行事には参加しませんが、裏方で大いに活躍してくれています。

地域の年中行事

茂名地区では、一年を通じてことあるごとに集落内の人々が集まる行事が行われます。里芋祭りのほかに、稲作の始まりと終わりに行われるヒマチ、さまざまなおビシヤ、季節ごとのオコモリなどがあります。また昭和三十年頃までは、子供達で行う虫送りやタナドイ、鉦を叩き、念仏と共に大数珠をまわしたり、子供達に団子をふるまったりする十夜の行事も盛んだったそうです。